



# 古文文法 part2 助詞入門編

(基本ルール。時に例外あり…)



なんぞおぼえざらんや。

<p><b>を・ば・に</b> (接助)</p> <p>㊦+ば → ~ならば(仮定) ㊧+ば → ~すると ~ので</p> <p>何でもアリ</p> <p>接助の「を」「に」 → ~ので、~だが、~すると</p>	<p>① 仮定の「ば」を表すものを以下からすべて選びなさい。</p> <p>ア. それを見れば イ. 人のまうで来ば ウ. 桜のなかりせば エ. 風波やまねば</p>	<p><b>耳より情報</b> </p> <p>接助の「を、ば、に」は主語がわりやすいと言われてます。 (「ば」は変わらないことも結構ある気がする…)</p>	<p><b>で</b> ≡ ず+て ~しないで</p> <p><b>ずは</b> → ~でないならば <b>では</b> → ~以外には ~なくては</p>	<p>② 下線部を訳しなさい。</p> <p>この女を見では 世にあるまじき心地の…</p> <p>古文の「見る」には、「会う」「結婚する」という意味もあるよ!</p>	<p><b>ものからものもの ものゆえものを</b></p> <p>4つまとめてしまおう! ~ので(原因・理由) ~のに、~けれど(逆接)</p>	<p>③ 次の「ものを」は、原因・理由か? 逆接か?</p> <p>・都いてで君にあはんと来しものを 来しかひもなく 別れぬるかな</p>
<p><b>ぞ・なむ や・か こそ</b> 係助詞 結びは何形?</p> <p>ぞ・なむ・や・か → 連体形 こそ → 已然形</p>	<p>④ 次の「こそ」に対する結びの部分を選びなさい。</p> <p>ア. 君こそうつくしけれ。 イ. 君こそうつくしかりけれ。</p> <p>?なら質問しよう★</p>	<p> 結びの省略 結びの消滅とは? こっちは右マスで</p> <p>{ ~にや(あらむ) など ~にこそ(聞け) }</p> <p>「あり、侍り、言ふ、聞く、思ふ」などの連体(已然)形が省略。</p>	<p><b>“こそ”の特殊用法と“もぞ”</b></p> <p>・ ~もぞ / ~もこそ… → ~したら困る</p> <p>・ ~こそ… ㊦ → 逆接 (文が続くと結びの消滅)</p> <p>・ 人名 + こそ → よびかけ</p>	<p>⑤ 下線部を訳しなさい。</p> <p>ア. 品、顔こそ生まれつきため、心はなどか… イ. <sup>からす</sup>鳥などもこそ見つけれ。</p>	<p><b>や・か</b> 疑問? 反語?</p> <p>基本は文脈だが 「やは / かは」の形や 文末が「一んや」の形は反語が多い。</p>	<p>⑥ 下線部は反語か疑問どっち?</p> <p>ア. 「後の位も何にかはせん」 イ. ほととぎすや聞き給へる。</p>
<p><b>㊦+なむ / ㊦+ばや</b> (終助詞)</p> <p>㊦+なむ → (他者に)~してほしい ㊦+ばや → (自分が)~したい</p>	<p>⑦ 次の空らん「なむ」か「ばや」のいずれかを入れなさい。</p> <p>・ いつしか梅咲か□。</p>	<p><b>さへ</b> (添加の副助詞)</p> <p>よいしょ</p> <p>①は~。 ②までも…</p>	<p>⑧ 下線部を訳しなさい。</p> <p>雨降りぬ。風さへも出て来ぬ。</p> <p>・ 次の「だに」は限定・類推? 命だにあらば、</p>	<p><b>だに</b> 限定は基本「~だけでも」と訳す</p> <p>・ 希望・願望・仮定・命令 → 限定 (せめて~だけでも(~さえ)) ・ 上以外 → 類推 (Aでさえ~ましてBは…)</p>	<p>?? 類推って??</p> <p>次の現代の例文で… 数学の得意なAでさえ50点。(トホホ…) まして□なBは…</p>	<p><b>+a</b> 現代語の「さえ」は限定の意味もある。</p> <p>愛さえあれば 仮定</p> <p>だから、訳を選択肢で選ぶときは「~さえ」がどういう意味か考える!</p>
<p><b>の</b> (その1) </p> <p>・ 私の愛する人 → 主格(一が) 下に動詞を伴いやすい ・ 私の恋人 → 連体修飾格(一の) ・ これだれのペン? → ほかの! 準体格(一のもの)</p>	<p>⑨ 下線部の「の」が主格を表すものを選びなさい。</p> <p>ア. 桜の花、咲きたり。 イ. 桜の咲きたれば、 ウ. 四条大納言のはめでたく</p>	<p><b>の</b> (その2) 次の、までの…のどこかで名詞Aが補える</p> <p>・ 同格(~で) ~(な)Aの…(A)、 この形多い</p> <p>同格とは結局、「~でかつ…なA」ということ。他に「の」には連用修飾格も(有)。</p>	<p>⑩ 下線部の「の」が同格であるものを選びなさい。</p> <p>ア. 桜の花の、いとをかしよう咲きたれば、 イ. 赤き花の、美しく咲きたるが、枯れぬ。</p>	<p><b>~がな</b>      <b>~にしがな</b> <b>~もがな</b>      <b>~てしがな</b></p> <p>~があればなあ      ~したい</p>	<p>⑪ 下線部を訳しなさい。</p> <p>ア. あっぱれ、よからう敵がな。 イ. いかでこのかぐや姫を得てしがな。</p>	<p><b>な~そ</b> (副詞) 終助詞</p> <p>「な~そ」で禁止を表す。 注意点としては「な」は助詞もある</p> <p>→ 次のマスへGO!</p>
<p><b>~な</b> (終助詞)</p> <p>現代でも使ってるよ!</p> <p>「そんなこと言うな!」 ← 禁止 「楽しいな」 ← 詠嘆、念押し</p> <p>接続でもいいが、文脈判断でOK</p>	<p>⑫ 次の中から、禁止の意味を表す文を選びなさい。</p> <p>ア. 花の色は移りにけりな。 イ. あやまちすな。 ウ. 今日はな焼きそ。</p>	<p>他にも気にしておくといい助詞を紹介しておきます。</p> <p></p>	<p><b>し</b> 副助詞 ←特に訳出なし。強意の副助詞</p> <p>ex 花をし見れば、→ 花を見れば 「し」をとっても問題ない! → 「し」の識別は頻出なのでpart3で扱います。</p>	<p><b>かし</b> ←念押しの終助詞</p> <p>ex 「これは知りたることぞかし」 (知っていたことであるよ)</p>	<p><b>して</b> 要は“~を使う”というニュアンスが大切。</p> <p>・ 人して召させて、~に命じて ・ 血して書きつけける ~をもって</p> <p>他にもあるけど、上の2つが大切。</p>	<p>これで part2 はおしまい。 part3 では、まぎらわしい識別を中心に扱います。</p> <p></p>

解答 ① イ・ウ ② この女と結婚しないでは ③ 逆接 ④ ア. うつくしけれ イ. けれ ⑤ ア. 家柄、容姿は生まれつきであろうが イ. カラスなどが見つけたら大変だ ⑥ ア. 反語 イ. 疑問 ⑦ なむ ⑧ 風までも出てきた/限定 ⑨ イ ⑩ イ ⑪ ア. よい敵がいればなあ イ. なんとかしてこのかぐや姫を自分のものにしたい。 ⑫ イ・ウ